

Q：なぜ、あなたは、法教育の授業（出前講座）をする（したい）のですか？

・・・その意欲は、どこからでてくるのですか？

という質問をさせていただきました。

■教師のみなさんからは、こんな思いが語られています

・「今の若者が社会で生きていくのに、もっとも必要な異質共生のスキルが、法教育の中にあるから。」（井沼淳一郎さん）

・「法律を知ることは、生きる力となるから。決して、マイナスはない。」・・・（その意欲はどこから？）「特別なものではないでしょう。伝えるのが教師の仕事です。考えたことないです。」（西野純一さん）

■司法書士からは、こんな思いが語られています。

・「教育現場では、市民として必要な知識がきちんと伝えられていない現実。法律を職業とする者がこれを補うのは、当然と考えています。」・・・（その意欲はどこから？）「法律を知らないばかりに、忸怩たる思いを幾度も味わった実体験。」（匿名その1さん）

・「社会に巣立とうとする若者を相手にすることに興味があります。」・・・（その意欲はどこから？）「金融機関、不動産業者を相手に仕事するのに疲れました。」（匿名その2さん）

Q：あなたが、今、そしてこれからの高校生・若者に必要だと考えている法教育と、登壇者、参加者の意見とは、違っていましたか、同じでしたか？

という質問をさせていただきました。

■教師のみなさんからは、こんな声をいただきました。

・同じだった 「一人一人が自分に適したことができればいいと。『教育』とは、すべてそうでしょう。どんな教科、科目であっても。」（西野さん）

・若干違っていた 「法教育は、弱者（被害者）を守る、あるいは不幸にならないように予防するだけではなく、異なる価値観をもった人々が共生していくスキルだと思う。」（井沼さん）

・どちらともいえない 「消費者として自分の身を守るための知識はもちろん必要だが、ときに思わぬところで落とし穴に落ちてしまう社会的な仕組みを、原理的なところから説明してくれると、知識の必要性もよくわかるのではないか。」（匿名その3さん）

■司法書士からは、こんな声をいただきました。

・同じだった 「『異なる価値観をもった大人たちとコミュニケーションする力』というお話に、強く共感しました。」（匿名その4さん）

・どちらともいえない 「現場の声はシビアでした。」（匿名その5さん）・・・どうシビアだったのかな？？

Q：その他、感想や意見を自由にお書きいただきました。

(1) すみません。「会場が狭かった」「狭くて暑かった」というご意見をたくさんいただきました。

実行委員会の当初想定の倍以上の人数のみなさんにご参加いただき、しかも、直前に一気に増えたものですから、会場変更の方法がとれませんでした。今後の課題とさせていただきます。「高校だと、無料でお貸しできますよ。」という、ありがたい情報を書いていた方もいます。・・・同種企画をされる、全国のみなさん。これはねらい目かも？

(2) すみません。「討論の時間が少ないのが残念」というご意見もたくさん。

出だしのパワーポイントの不具合からつまずいて、登壇をいただいた来賓のみなさん、報告者のみなさん、みんな熱心にお話をいただき、どんどん時間が押してしまいました。これも、今後の課題とさせていただきます。

(3) 教師のみなさんから、司法書士に対して、こんなご意見（問題提起？）をいただいています。

・「司法書士とはどういう人なのかを、分かりやすく説明する必要がまずあるのではないか。高校生にしても、今、話をしているのが誰なのかが分からないままでは、いくら内容的に意義のあるものでも、素直に頭に入ってこないかもしれません。」

・・・かと言って、「登記手続きをやっていて、不動産や法人や・・・」としゃべっても、難しすぎて拒否反応されてしまうことも。司法書士ならではの PR ポイントを「ひとこと」（とは言いませんが）キャッチコピーのように、すっと受けとめてもらえるような、そんな説明を開発しないといけないのかも・・・と、この感想を見て思いました。

・「高校生の法律講座にかかわっている司法書士さんの悩みは共通していることが見えてきた。 1. 法律講座に積極的な司法書士とそうでない司法書士がいる 2. 話を聴いてほしい生徒さんほど聴いてくれない・・・ 3. 予防的な法律講座のままでいいの？さて、どうする？」

・・・ムムム、確かに。これは難問ですね。みんなで智恵を出し合いたい課題です。よろしかったら、「会員専用ブログ」に、みなさんのご意見やアイデアをお寄せください。

===以上、事務局スタッフから、ご報告させていただきました。(文責：小牧美江)

【 司法書士法教育ネットワーク創立記念シンポジウム アンケート結果 】

回答総数 33件 内訳：司法書士27件、一般6件（教員4件・その他2件）

司＝司法書士の回答 「 」の内の記述はアンケートから抜粋
は、集計者によるコメント

Q2．なぜ法教育に取り組むのか？

- 司； 司法書士の職責だから（cf.「司法書士だから」）
知ること、考えることの重要性を伝えたいから（cf.「法的資質を高めるこ
とはこの社会で、ひとが幸せに生きていくために必要」）
事後救済より予防に効果があると考えから
「居場所がないのはあなたのせいではない」というメッセージを伝えたいから
「法教育に取り組みたくない」という意見もあり。理由は、「法教育」というもの
が実感できないから。自分に何ができるか、何をすべきか考えてから取り組みた
いとのこと。
- 一般； 自己防衛、他者との共存、ひいては幸福追求、のため必要である1つのスキル
だから。
社会の実相を知るための良い機会だから。

Q3．その意欲の源

- 司； 司法書士としての使命感、義務感
意欲や使命感という大それたものでなく、若年と接することがたのしいから
自分自身の成長（司法書士として、人間として）
好きだから、楽しいから、充実感があるから
若者に必要なもの、足りないものを感じ、それを伝えたいという気持ち。
司法書士というより、社会の一員、大人としての責任感が意欲の源で、司法書士と
いう職業上、法律的な角度からそれを伝えるということ？
- 一般； 他の教育の場合と、変わるところはない。伝えるのが教師の仕事

Q4．これから必要とされる法教育

- 司； 司法書士として、司法書士ならではの、司法書士にしかできない法教育、独自の
メッセージの確立が必要とされるのでは？
生きる力の重要さ
双方通行の授業が重要
法教育と消費者教育の違いが良く分からない（そもそも、法教育が良く分から
ない）
取り組みに二の足を踏む原因

一般； 「司法書士はどういう人なのかを分かりやすく説明する必要があるのでは？高校生にしても、今話しているのが誰なのか分からないままでは、いくら内容的に意義のあるものでも、素直に頭に入らないかもしれない。」(教員)
「法教育は弱者を守るあるいは、不幸にならないように予防するだけではなく、異なる価値観を持った人々が共生していくスキルだと思う。」(教員)
「一人一人が自分に適したことができればよいと思う。『教育』とは全てそうでしょう。どんな教材、科目であっても。」(教員)
(登壇者の考える法教育と自分の考える法教育が) 「違っていたというより深まったかなと思います。高校生が大人と出会う、社会を見る場。大人も同じ。こういった関係を作っていく作業につながることは法教育を深める手がかりかも。」

Q 5 . 創立記念シンポジウムについて感想

[内容について]

- ・ 普段接することの無い相手の話を聞くチャンスができて、情報交換の良い機会になった。(司法書士と教師、司法書士と司法書士、教師と教師、一般のかたと司法書士・教師)
- ・ ネタ、活力、やる気、勇気もらった。
- ・ こういう会を定期的にやってほしい。
- ・ ネットワークの目指すものが結局分からなかった。目的が曖昧。
- ・ 悩みが共通していることが分かった。

[会場、日程について]

- ・ 狭い、暑い、ディスカッションの時間がもっと必要 (同意見多数)

Q 6 . 今後も当ネットワークの企画する催しに

参加したい	29人
参加したくない	0人
どちらともいえない	4人

アンケートへのご協力をいただいた皆さま、ありがとうございました。